

ボランティアグループがつくる和歌山県ジェンダー平等推進センターの書評誌

この本よんだ？

～りいぶる BOOK プラス～



リカバリー・カバヒコ

青山美智子 著 光文社 2024年 (K:エッセイ・文学)

「人呼んでリカバリー・カバヒコ...カバだけに」寂れた小さな日の出公園にあるカバのアニマルライド(遊具)。痛みや治したいところと同じ箇所を触ると治るという伝説がある。近所の新築分譲マンションに引っ越してきた5人の物語で、2024年本屋大賞ノミネート作品である。各々がちょっとしたことから、悩んだり落ち込んだり、そのうち体にも変調をきたしてしまう。リカバリー・カバヒコの伝説を日の出公園の前にある「サンライズ・グリーンング」の高齢女性店主やその店の顧客から聴きカバヒコに会いに行く。そして緩やかにリカバリーしていく。どの登場人物も他の章でもちょこちょこ登場し、それぞれの近況がわかり、よかったな頑張っているなどと思わせてくれる。カバヒコを通じて新しい住民同士や近所の人たちとの穏やかな交流もうまれていく。第4話で整骨院の先生から小学生(主人公)にかけられる言葉が心にしみる。疲れたり心が弱ったりしている人に力がついてしまう前に読んでほしい。

(せいこ)

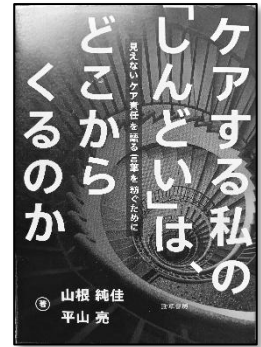


ケアする私の「しんどい」は、どこからくるのか

見えないケア責任を語る言葉を紡ぐために

山根純佳・平山亮 著 勁草書房 2025年(E:こころ・癒し)

この社会は、あまりにも「ケア(家事・育児・介護)は女性のほうができるもの」という前提でできすぎている。「できるべきもの」とされているから「できていない」と見なされた際には、その結果責任をとらされる。「わからない」こと、「うまくいかない」ことをも引き受けさせられている。近ごろ広まって来た「名もなき家事」という言葉。家事の前提となる目につきにくい仕事を指す言葉である。家事だけでなく子育てにおいても介護においても、目に見える行為に至るまでの目につきにくい「お膳立て」を女性は常にしている。9時から17時で終わるものではない。一方で、男性が「ケアできなくても仕方ない」と、「ケアしないこと」を免責する規範がこの社会にはある。このジェンダー間のケア責任の不均衡問題と、気づかれていない「名もなきケア責任」に光をあて、モヤモヤを言語化したのが本書である。(み)



きれいはいまもゆれている 外見・身体・アイデンティティの交差点

谷本奈穂・飯塚理恵 編著 晃洋書房 2025年(A:フェミニズム)

本書は6つの章と4つのコラムから成る論文集である。各章で執筆者が異なり、専門分野も違っているが、貫いているテーマは「美容」である。

「約半数の論者が『男性美容』を主題にしていたことに、私たち自身も驚かされた」と、編者の谷本があとがきで述べている。第6章「美しい軍人のつくられ方」では、韓国の兵役に従事する男性の間で「男らしさ」のひとつとして美容が普及していることが述べられ、初めて知る事実を目を惹かれた。また、コラム4では脱毛する若い男性が増えていることが示されていた。東京都の短パン許可が賛否両論を呼んだが、拒否感が生まれるのは年配男性に脱毛の習慣がないことも関係しているのではと頭をよぎった。いま、「きれいがゆれている」のは男性の方なのかも知れない。

第2章「ルッキズムが持つ多様性」では、『ルッキズム』がどんな状態を指しているのか、なぜ悪いのかといった問いに答えることは容易ではない」と述べられている。ルッキズムは定義が定まっておらず、論者によって様々な論点で語られていることを示し、ルッキズムを4つの説に分類している。度々メディアで「ルッキズム」という語が出てくるが、何を問題としているか冷静になって考える一助となろう。他にもアンチエイジング、美容整形など興味深い多様な視点の論文があり、読みたい章から読むのがおススメ。(O.S)



※“りいぶる”での分類記号一覧

A:フェミニズム B:労働・法律 C:家族・結婚 D:女性・子どもに対する暴力 E:こころ・癒し F:子育て・絵本 G:からだ
H:セクシュアリティ I:女性史 J:自伝・評伝 K:エッセイ・文学 L:高齢社会・福祉 M:男性学 N:資料・雑誌 O:その他
P:AV 資料 Q:コミック R:NPO サポートセンター所蔵図書

学校とジェンダー 「ふつう」って何？

山根真理、高橋靖子 編著 学事出版 2025 年 (A:フェミニズム)

最近、学校ではジェンダー(社会的・文化的に構築された性別)や制服、LGBTQなど多様な性のありかたが問題になることがあっても、向き合い方がわからず、知りたいというニーズがある。本書は、教育大学の一回生向きに行われた講義から今日的課題についてまとめられたものです。

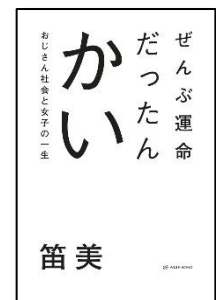
内容については、まず、こども政策からみたジェンダーについて解説があり、学校文化の中における「男らしさ」「女らしさ」などの固定観念に気づくこと。続いて、「デートDV(ドメスティック・バイオレンス)」「セクシャル・ハラスメント」「性の多様性」「包括的性教育」「スポーツにおけるジェンダー平等」「外国にルーツをもつ子どもたちのジェンダー」「カウンセリングにおけるジェンダーバイアス」「教員の労働問題」があり、知識のアップデートに役立つのではないかと思います。(か)



ぜんぶ運命だったんかい おじさん社会と女子の一生

笛美 著 亜紀書房 2021 年 (A:フェミニズム)

本書は、男性中心の広告業界でがむしゃらに働いていた著者が、フェミニズムに目覚めるまでを涙と笑いで綴るエッセイ集です。著者が30代になったとき北欧ヘイターンへ行きます。日本とは違う「当たり前」に触れたことで、はじめて自分のいた社会の違和感を認識していく過程に強く共感しました。私自身、ヨーロッパに住んだことがきっかけで、社会の違和感に気が付き、それを言語化してくれたのが本書です。日本にいと、苦しさの原因を自分の努力不足や性格の問題として処理してしまいやすく、自己肯定感が低くなりがちです。しかし、環境が変わると、「これは個人の問題ではなく、社会の空気だったのか」と見えて、自分を認める大切さを学んでいきます。また、テレビで流れるCM、電車や町中での広告すべてが男性中心社会を維持するものであることも知りました。…ぜんぶ運命だったんかい…その後の著作の活動も知ることができます。ぜひご一読ください。(めい)



よかれと思ってやったのに 男たちの「失敗学」入門

清田隆之(桃山商事) 著 晶文社 2019 年 (K:エッセイ・文学)

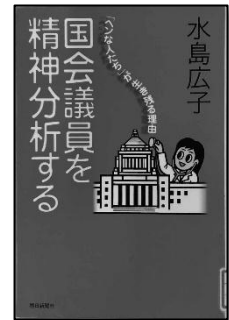
本書は、著者が女性たちから聞いた男性に対する不満や疑問を紹介しながら、主に男性側の問題点を考えていくという内容です。挙げられている不満や疑問の一つひとつは些細なことです。しかし、丁寧に考察することで、それらの根底には古いジェンダー観や男性も苦しんでいるかもしれない、「男はこうあるべき」という思い込みがあることが分かります。それらの考察を補完するように、様々な角度から男らしさに関する研究をされている先生方との対談も掲載されています。全ての人にとって、自分の問題点を見つめ、他者とのより良い関係を築く一助になる本です。ぜひ読んでみて下さい。(A.T.)



国会議員を精神分析する

水島広子 著 朝日新聞社 2003年 (K:エッセイ・文学)

筆者は精神科医で元民主党の衆議院議員。天皇陛下の又いところでもある。国会議員といえば「二世」「元官僚」「元芸能人」といったイメージが強いが、精神分析すると「自己愛パーソナリティー」が多いという。特徴は「自分は重要な人物だという誇大な感覚を持っている」「限らない成功や権力などの妄想に浸っている」「過剰な賞賛を求める」「特権意識を持っている」「他人への共感が欠けている」「嫉妬深い」「横柄で傲慢」…筆者の実感であり、精神科医としての分析でもあるので信憑性が高い。

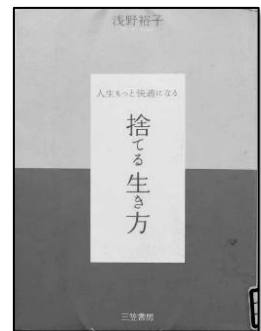


後半には「どうすれば政治家を変えられるか」という章がある。ここはみなさんにじっくり読んでいただき、主権者である国民として真つ当な政治を求めていく参考にしていただきたい。ついでに筆者には高市首相の精神分析もお願いしたい。(紀生)

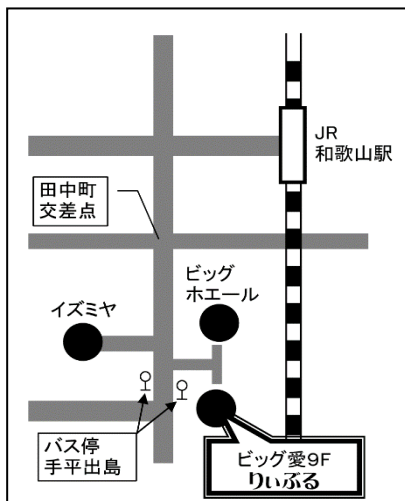
人生もっと快適になる 捨てる生き方

浅野裕子 著 三笠書房 2007年 (O:その他)

本書は人生のガラクタを捨てるためのガイドブックです。著者は、「捨てる生き方」を実践すると、今よりもっと快適に、自由に、そして思い通りに人生を歩いていけるはずと述べています。実践方法の一部を抜粋し、紹介していきます。



「余計な付き合いを捨てる。」人生において大切な人、一緒にいて心地よく過ごせる人はせいぜい三人。「いらないものを捨てる。」本当に必要なものだけを残しあとは思いきって捨てる。本当に必要なものは、常にあなたのそばにある。「後ろ向きの過去を捨てる。」過去をきちんと清算し、これからの自分を築いていくのは、あなた自身。思い出というのは記憶であり、心の中に残すもの、思い出を形あるものにして、自分のそばに置くのなら見て、読んで、触れて心地よくなるものだけを選ぶ。他にもショッピングの注意点、メイクのコツ、掃除の仕方等が書かれています。本を開いてお確かめを。(はんちゃん)



この本 よんだ? 第33号 (2026年10月発行)

◇企画・発行 りいぷるぷらす

◇協力 和歌山県ジェンダー平等推進センター“りいぷる”

【編集後記】 この書評誌は、ボランティアで作り、自分たちで印刷しています。初めはりいぷるの印刷機を使用していましたが、故障後、NPOサポートセンターの印刷機、紙折り機を使用させてもらっています。前号の32号印刷時にNPOサポートセンターの機械も故障し、どうなることかとヒヤヒヤしましたが、なんとか間に合いました。。

★書評誌のご感想などはこちらのメールアドレスまで。

E-mail libreplus@yahoo.co.jp